

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	情報リテラシーⅢ	(TDB201)	
講義名 (コード)	情報リテラシーⅢ	(TDB201)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位
授業担当者	福井 琢也	時間数	30時間
成績評価教員	福井 琢也	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	情報処理技術者試験のITパスポート試験シラバスV6.3に対応した内容を身に付けることを目的とし、また本授業終了後に、本試験に合格することを到達目標とする。
全体の内容と概要	ITパスポート試験に必要な、ストラテジ系とマネジメント系(春学期)、テクノロジー系(秋学期)の知識をインプットして、問題集で知識をアウトプットする。
授業時間外の学修	授業で学んだ知識(教科書)を整理すること、また問題集を何度も解きなおすこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	確認テスト提出	企業活動1回目(経営・組織論/業務分析・データ利活用)
2	確認テスト提出	企業活動2回目(経営・組織論/業務分析・データ利活用)
3	確認テスト提出	企業活動3回目(会計・財務)
4	確認テスト提出	法務1回目(知的財産権/セキュリティ/労働関連/その他)
5	確認テスト提出	法務2回目(知的財産権/セキュリティ/労働関連/その他)
6	確認テスト提出	経営戦略マネジメント(経営戦略/マーケティング/経営管理/その他)
7	確認テスト提出	技術戦略マネジメント1(技術開発戦略/技術開発計画)
8	確認テスト提出	技術戦略マネジメント2(技術開発戦略/技術開発計画)
9	確認テスト提出	システム戦略1(情報システム戦略/業務プロセス/その他)
10	確認テスト提出	システム戦略2(システム化計画/要件定義/調達計画)
11	確認テスト提出	システム開発技術(システム開発技術)
12	確認テスト提出	プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
13	確認テスト提出	システム監査(システム監査/内部統制)
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ITパスポート教科書&問題集 2025年度版 (TAC出版情報処理試験研究会)
参考文献・資料等	その他資料については、適宜掲示する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
講義名 (コード)	TDB203	ビジネスマナーⅢ (DB)	
科目名 (コード)	TDB203	ビジネスマナーⅢ (DB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位30
授業担当者	佐藤 貴志	時間数	
成績評価教員	佐藤 貴志	講義期間	春期
実務者教員	いいえ	履修区分	
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	日本電御ビジネスマナーを学び、就職内定の合格とペアワークなどの実習からアウトプットする力やコミュニケーション能力を高める
全体の内容と概要	教科書のケーススタディをワークやグループアクティビティー
授業時間外の学修	自己英単語学習、各講義の予習と復習
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介・講義内容説明・基本英語学習	英語で自己紹介、講義内容と評価方法などを説明。日本の義務教育で学んできた英語よりさらにレベルアップした実践英語の学習法について説明
2	Session 1: 1年次で学んだビジネス	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 教科書の基礎知識を学ぶ
3	Session 2: 1年次で学んだビジネス	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
4	Session 3: 4 職場での付き合い	日本での団体行動と会社での付き合い方 教科書の基礎知識を学ぶ
5	Session 4: 4 職場での付き合い	日本での団体行動と会社での付き合い方 宿題の確認 ケーススタディを実践する
6	Session 5: 1 出勤時の遅刻	時間に対する考え方や遅れる時の対応 教科書の基礎知識を学ぶ
7	Session 6: 1 出勤時の遅刻	時間に対する考え方や遅れる時の対応 宿題の確認 ケーススタディを実践する
8	Session 7: 2 休日出勤	会社での時間管理 教科書の基礎知識を学ぶ
9	Session 8: 2 休日出勤	会社での時間管理 教科書の基礎知識を学ぶ 宿題の確認 ケーススタディを実践する
10	Session 9: 7 情報管理	会社での個人の情報管理と必要性 教科書の基礎知識を学ぶ
11	Session 10: 7 情報管理	会社での個人の情報管理と必要性 宿題の確認 ケーススタディを実践する
12	Session 11: 8 ハラスメント	ハラスメントの種類と意味 教科書の基礎知識を学ぶ
13	Session 12: 8 ハラスメント	ハラスメントの種類と意味 宿題の確認 ケーススタディを実践する 期末試験のレビュー
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール（改訂版） 武田聡子・長崎清美著
参考文献・資料等	日本電御就職活動ケーススタディ
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
講義名(コード)	TDB205	キャリアデザインⅢ (DB)	
科目名(コード)	TDB205	キャリアデザインⅢ (DB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位30
授業担当者	米村 真識	時間数	
成績評価教員	米村 真識	講義期間	春期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	学内に招致する企業・学校を調べ、主体的に就職活動や進路先を主体的に調査・発表する。
全体の内容と概要	将来のキャリアプランを主体的に考え、卒業後の進路を決定するために行動する力を身につける。
授業時間外の学修	グループワーク、発表準備、授業課題
履修上の注意事項等	進捗の状況により変更する場合があります。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	卒業までの工程を具体化し改めて目標を確認する。	進路希望調査/進路希望ごとにグループ分けして、各自の進捗状況について話し合う。マンダラチャートを使って具体的行動計画を作る。
2	グループワーク（基礎）	進路希望「進学（大学・大学院）」「進学（専門学校）」「就職」「起業」「海外留学」それぞれに分かれて自分の現在の取組みについて話し合う。
3	進学についての理解を深める①	3年次編入（国内・海外）の条件、費用、出願方法について調査する。編入先大学の情報をホームページ、進路サイトを通じて調査する。
4	就職についての理解を深める①	企業採用担当者から会社説明をしていただき「仕事のやりがい」「働き方」「募集条件」「今後の展望」「求められる人物像」を聴き、進路選択に活かす。
5	起業についての理解を深める①	起業までのプロセス、法的要件、外国人が企業するための手続きについて調査する。
6	グループワーク①	進路希望ごとにグループワーク。自身の課題を洗い出し「情報収集」「選考対策」「合格後のキャリア」について討議する。
7	企業研究を通じて社会を知る。	会社情報を知り、自己の適性を考える。ホームページや就職情報サイト等を通じて企業の魅力を知り応募する場合の書類を作成する。
8	ハローワークについて理解する。	公共職業安定所（ハローワーク）の登録方法、求人票の見つけ方、面接対策、セミナー活用法を学ぶ。
9	ハローワークについて理解する。	ハローワークの担当者より活用法を学ぶ。
10	グループワーク②	進路希望ごとにグループワーク。自身の課題を洗い出し「情報収集」「選考対策」「合格後のキャリア」について討議する。
11	在留資格について知る。	在留資格変更許可申請の方法を知る。実際に在留資格変更許可申請書を書く。
12	グループワーク③	進路希望ごとにグループワーク。自身の課題を洗い出し「情報収集」「選考対策」「合格後のキャリア」について討議する。
13	グループワークで話し合った内容を個人発表する。	個人発表をもって期末試験とし評価対象とする。ひとり当たり3分でまとめる。
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ITビジネス演習Ⅲ		TDB207
講義名 (コード)	ITビジネス演習Ⅲ		(TDB207)
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者	居山 由彦	時間数	30
成績評価教員	居山 由彦	講義期間	前期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、実務者教員による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	いくつかの企業が現在取り組んでいるビジネスモデルやDXについて実践的な事例研究をすることを通して、DXが企業にもたらす価値や課題を習得する。検討した事例をヒントに課題に対する改善DXアイデアを考え、その提案をプレゼンテーションできるようになる。
全体の内容と概要	連携企業の協力の元で行われるworkshopや実際のマーケットの視察から学ぶ授業
授業時間外の学修	登場する連携企業について各自の事前調査を奨励 日本の連携企業の事例研究をヒントとして、類似例などを海外で探すリサーチワーク
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	今期授業の目的を理解	概論 市場調査
2	今期授業の目的(流通市場とSCM)を理解	流通とSCM
3	スマホを利用したマーケティングの実像を体感	スマホとアプリとマーケティング リードジェネレーション、リードナーチャリング、 リードクオリフィケーション 「集客」手法と戦略立案 カスタマーサクセス
4	スマホを利用したマーケティングの実像を体感	スマホとアプリとマーケティング 様々なケーススタディ
5	池袋周辺の大型店舗から現在の市場状況を読み解く	池袋の大型流通店舗をField Survey 東武、Lumine、PARCO,電気量販店、西武はなぜ衰退したか？
6	池袋周辺の大型店舗から現在の市場状況を読み解く	休講もしくは同上 (6/18振替)
7	池袋周辺の流通市場の特性を市場分析し、プレゼンテーションする	5/16 Field Survey レポート Supply Chain Management なぜ重要か？ 機会損失と在庫リスク,関税と原産地
8	SCMの意味とそのビジネス上の重要性を理解	Supply Chain Management ユニクロとZala
9	倉庫と流通センターの実際のオペレーションを実感する	Supply Chain Management 羽田クロノゲート見学
10		Supply Chain Management 羽田クロノゲート見学
11	視察した羽田クロノゲートについてビジネスレポートをまとめる	クロノゲート視察まとめレポート作成 SCM まとめ
12	前期に学んだ事全体を振り返る	前期 まとめ
13	復習	後期の復習
14	期末試験	後期試験
15	期末試験解説	試験の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	<u>企画・マーケティング・経営企画など多様な分野に従事。欧州6年・中国4年の海外勤務を通じ、EU統合や中国WTO加盟といった変革期に多国籍人材を率いて事業改革を推進。欧州マーケティング統括、中国現地法人社長、本社関連会社社長など要職を歴任。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ITビジネス演習Ⅲ		(TDB207)
講義名 (コード)	ITビジネス演習Ⅲ_スマートシティ		(TDB207)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	4
授業担当者	中島涼輔	時間数	60
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス・IT戦略・業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	スマートシティを大テーマとして、各領域におけるテクノロジー活用方法を体系的に習得する
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	街作り概要の理解	・シラバス説明 ・街作りの検討プロセス・要素
2	スマートシティ概要の理解	・スマートシティの概要・構成要素
3	-	(祝日のため休講)
4	スマートシティの先進事例理解	・特定領域における先進事例①(交通/モビリティ/物流)
5	同上	・特定領域における先進事例②(医療/介護/教育)
6	同上	・特定領域における先進事例③(環境/エネルギー)
7	同上	・特定領域における先進事例④(農業/観光)
8	同上	・特定領域における先進事例⑤(決済/通貨)
9	同上	・特定領域における先進事例⑥(防災/行政手続き)
10	同上	・特定領域における先進事例⑦(出産/育児)
11	スマートシティのアーキテクチャ理解	・スマートシティを実現するITアーキテクチャ
12	スマートシティのガバナンス理解	・スマートシティを支えるセキュリティ・ガバナンス
13	-	・前期の総復習
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	-

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ITビジネスとリスク環境論 I (サイバーセキュリティ)		(TDB209)
講義名 (コード)	ITビジネスとリスク環境論 I (サイバーセキュリティ)		(TDB209)
対象学科	グローバルビジネスコース	配当学年	2
対象コース	デジタルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	巴 義明	時間数	30
成績評価教員	巴 義明	講義期間	前期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	情報セキュリティの基礎知識、リスク認識および対応プロセスの流れを習得し、ITビジネスにおけるリスクへ適切対応できるスキルを身につける。
全体の内容と概要	講義で身につけた知識をワークショップで活用し定着を図る。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ITビジネス環境及びリスクの定義を理解する	自己紹介/ITビジネスとリスク (ITビジネスの定義と想定されるリスク)
2	リスクマネジメントの基礎を理解する	リスクマネジメントの基礎 (リスクマネジメントの考え方と手法・プロセス)
3	情報セキュリティの定義を理解する	情報セキュリティとは (情報セキュリティの基本と、身の回りの情報セキュリティ)
4	セキュリティマネジメントの基礎を理解する	情報セキュリティマネジメント① (セキュリティマネジメントの考え方と手法・プロセス)
5	セキュリティの歴史を理解する	情報セキュリティマネジメント② (セキュリティの歴史と変遷)
6	組織におけるセキュリティマネジメントの取り組みを理解する	情報セキュリティマネジメント③ (組織的な取り組み、企業・組織における取り組み状況)
7	情報セキュリティの基本的な対策を理解する	情報セキュリティマネジメント④ (情報セキュリティ対策の種類)
8	サイバー攻撃の種類を把握する	サイバー攻撃対策① (サイバー攻撃の種類、サイバー攻撃の現状)
9	サイバー攻撃への対策を把握する	サイバー攻撃対策② (サイバー攻撃への対策の手法、使われている技術)
10	サイバー攻撃対策の流れを体験する	サイバー攻撃対策③ (サイバー攻撃対応演習の流れ、シナリオ作成)
11	情報セキュリティに関する法律等を把握する	情報セキュリティに関する法規制、ガイドライン等 (関連する法律、ガイドライン、フレームワーク等)
12		試験
13	リスクの予見と対策を実践する	未来のITビジネスとリスク (ITビジネスの未来予想と発生するリスク (ディスカッション))
14		
15		

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	金融テクノロジー I (TDB211)	配当学年	2学年
講義名 (コード)	金融テクノロジー I (TDB211)	単位数	2
対象学科	グローバルビジネス学科	時間数	30
対象コース	デジタル・ビジネスコース	講義期間	春期
専攻		履修区分	必修
授業担当者	池田一男	授業形態	座学
成績評価教員	池田一男	実務者教員	○
実務者教員特記欄	本授業は実務教員による授業である。		

2. 本授業科目の概要	
目的 (位置づけ)	銀行はじめ金融機関の役割と歴史をふまえ、技術革新がもたらす新しいキャッシュレス社会、FinTech社会、そしてスタートアップの資金調達を学ぶ
到達目標	各種金融機関の役割と創業融資の手段を理解すること
全体の内容と概要	講義が主体だが、流通キャッシュレスや株取引等特定のテーマについて体験的視察を含める
授業時間外の学修	授業とディスカッションを中心に、調査研究、発表を行っていく。
履修上の注意事項	
特記事項	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画			
回	日程	講師	授業内容
1	4月18日	池田一男 様	金利のはなし（1） 住宅ローンの金利、カードローンの金利、日銀の貸出金利・・・ 金利の法律、規制
2	4月25日	池田一男 様	金利のはなし（2） 金融業の資金調達と貸金 利益の構造
3	5月2日	授業なし	課題
4	5月9日	池田一男 様	金融業とはどんな仕事か（1） 金融業の種類 (銀行、信用金庫、地方銀行、消費者金融、政府系金融機関・・・) 貸出しの種類 預金の種類 手数料収入 その他の業務
5	5月16日	池田一男 様	金融業とはどんな仕事か（2） 金融業の種類 (銀行、信用金庫、地方銀行、消費者金融、政府系金融機関・・・) 貸出しの種類 預金の種類 手数料収入 その他の業務
6	5月23日	池田一男 様	金融機関での借入手続き（1） 借入の前提（法人、個人、反社会的勢力のチェック） 借入に際して整理しておくべきこと (計画、金額、資金使途、借入期間、返済方法、保証・担保)
7	5月30日	池田一男 様	金融機関での借入手続き（2） 借入金融機関の選択 借入の手続き（銀行への説明、借入申込書の書き方、準備する資料、登記事項証明書、印鑑証明、資金使途を説明する書類・・・）
8	6月6日	池田一男 様	金融機関での借入手続き（3） 借入金融機関の選択 借入の手続き（銀行への説明、借入申込書の書き方、準備する資料、登記事項証明書、印鑑証明、資金使途を説明する書類・・・）
9	6月13日	日本IBM 安留義孝様	流通市場と金融テクノロジー
10	6月20日	日本IBM 安留義孝様	世界のキャッシュレス決済
11	6月27日	池田一男 様	景気、経済の変動と金融 バブル景気と平成の経済停滞
12	7月4日	並河名誉校長	仮想通貨の最新市場動向
13	7月11日	池田一男 様	金融機関での借入手続き（4） 返済が苦しくなったたらどうするか？返済が苦しい企業に対する銀行の考え方 制度融資の活用 投資家からの出資と銀行借入 企業の精算、倒産
14	7月18日	池田一男 様	振り返り試験（4択を想定）
15	7月25日	池田一男 様	追試とテストの解説並びに講評

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	・本教員は、企業にて、営業や人事その他の業務を歴任した。その経験を活かして、企業コンサルタント、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。



1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	デジタル・マーケティングⅢ	(TDB213)	
講義名 (コード)	デジタル・マーケティングⅢ	(TDB213)	
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	2
対象コース	デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者		時間数	30
成績評価教員	居山 由彦	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務教員による授業である。	授業形態	講義・質疑応答

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ネットを利用した宣伝広告やその効果測定、マーケティング・オートメーションへの応用等を身につける。ネットを通じての宣伝広告、マーケティング・オートメーションの応用などを基礎的なレベルで実践できるようになる。
全体の内容と概要	連携企業の協力の元で行われるworkshop中心の授業。IT機器やアプリを利用した実践的トレーニング含む
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	1年生時にマーケティングについて学んだことを思い出す	イントロダクション 1年生授業の振り返り DBコース学生：1年のサマリーをまとめる。
2	1年生時に学んだカスタマージャーニーマップの本質を習得する	マーケティングの基本 ペルソナ設計、マーケティングフレームワークの活用(3C,SWOT分析,STP分析,4P) カスタマージャーニーマップ
3		授業なし
4	消費者の購買意思決定プロセスを理解する	マーケティングの歴史・ダイレクトレスポンスマーケティング 購買プロセス(AIDMA,AISAS,AISCEAS)購買ファネル
5	トリプルメディアの意味と役割、利用方法を理解する	トリプルメディア(アードメディア・ペイドメディア・オウンドメディア・) コンテンツマーケティング
6		健康診断 授業なし
7	各種のソーシャルメディアの違いとマーケティングへの応用を理解する	ソーシャルメディアマーケティング (Facebook,Instagram,Threads,x,TikTok,LINE)
8	SNS広告、Google広告の仕組みと応用を理解する	SNS広告(Facebook,Instagram,YouTube,LINE)・リスティング広告・ディスプレイ広告 広告クリエイティブの作成(CANVA)
9	Webサイトの構造とマーケティングへの応用と効果を理解する	WEBサイト(独自ドメイン,SSL,レスポンスウェブデザイン,HTML) ランディングページ(QUESTの法則・PASTORの法則・PASONAの法則・新PASONAの法則)
10		2ステップマーケティング・リストマーケティング・ メールマーケティング・顧客を育てるメルマガ・LINE
11	集客導線の設計・LP作成の仕方をも身につける	集客導線の設計・LP作成
12	Google検索の仕組みを理解し、SEOについて理解する	Google が掲げる 10 の事実 SEO・Googleキーワードプランナー・MEO
13	アクセス解析やデータ分析の方法を習得する	PDCA・Googleアナリティクス・Google Search Console・Google PageSpeed Insights
14	テスト	まとめ 期末テスト (理解度テスト)
15	テストの振り返り	追試 + テストの振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	毎回、授業についての資料を提示する
参考文献・資料等	授業において、情報を提供する
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	デジタル・ビジネス・トランスフォーメーションⅢ	(TDB215)	
講義名 (コード)	デジタル・ビジネス・トランスフォーメーションⅢ	(TDB215)	
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者	居山 由彦	時間数	30
成績評価教員	居山 由彦	講義期間	前期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	「デザイン思考」の手法を使って、学生のアイデアを新製品、新サービスの提案としてまとめる。それをTBL Venture Pitchで提案する。
全体の内容と概要	「デザイン思考」をフル活用し、各自の新規事業、新製品アイデアのプロトタイプを作成する。
授業時間外の学修	自分なりの新規事業もしくは新製品の構想を考える
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期授業の目的を理解	DBXⅢ の授業構想と狙い
2	ビジネスモデルの価値と真髄を理解	ビジネスモデルとプレゼンテーション
3	衣料業界のDXの事例を知る	MR君がもたらしたイノベーション、製薬企業のプロモーション激変。医師・製薬・Mスリー 3方よし。医薬マーケティングは激変中。
4		休講
5	ヘルスケア・医療系のDXを学ぶ 必要性を実感する	ヘルスケア・医療系DX 概要
6	ヘルスケア・医療系のDXの実情 と事例を学ぶ	疾病構造変化と受療患者数長期予測、治療補助アプリと医薬の棲み分け。高血圧アプリの特徴、臨床効果と保険価格、使用患者数、売上予測。 (心身健康、未病で薬要らずがベスト)
7	ヘルスケア・医療系のDXの実情 と事例を学ぶ	新薬の事業化戦略/R&Dから市販まで多難な道のり、リスクテイク、リターン
8	ヘルスケア・医療系のDXを学ぶ ことの意味を実感する	ヘルスケア・医療系DX まとめ
9	中国のDX事情を知る、その上で 日本社会の改革について各自で	デジタルシフトの要と日本の成功事例、失敗事例
10	考える	デジタル強国中国の事例
11	シェアリングエコノミーの現状 と事例を理解する	シェアリングエコノミー
12	前期全体の振り返りをする	前期まとめ
13	試験	試験
14	試験の振り返り	追試 + 振り返り
15		

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス統計学 I (DB)		(TDB217)
講義名 (コード)	ビジネス統計学 I (DB)		(TDB217)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	デジタルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	増井 麻里子	時間数	15
成績評価教員	増井 麻里子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	実務に活かせるデータ分析の知識およびExcel操作を習得すること。 統計の落とし穴を理解すること。
全体の内容と概要	インプットすべき知識とアウトプットに必要な技術を同時進行で習得できるように、講義と演習をバランス良く進める。
授業時間外の学修	世の中において、どのように統計学が使われているのか、なぜ統計学が重要なのかを考える。
履修上の注意事項等	分からないことがあれば、質問して解決するようにする。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	データ分析の重要性、有効性を理解する	第1章 データ分析をはじめの前に ・STEP1 何のためにデータを分析するのか ・STEP2 データ分析のステップを確認する ・STEP3 データを準備するときに知っておきたいポイント
2	基本統計量を理解する	第2章 データの傾向を把握することからはじめよう ・STEP1 ジューススタンドの売上を分析する ・STEP2 代表値からデータの傾向を探る ・練習問題をはじめの前に
3	基本統計量を求める	<課題> ・練習問題
4	基本統計量の結果を分かりやすく伝える	<課題> ・練習問題の結果を文章で表現し、考察を述べる
5	ピボットテーブルを作成する	第3章 データを視覚化しよう ・STEP1 データを視覚化する ・STEP2 ピボットテーブルを使って集計表を作成する
6	棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、100%積み上げ棒グラフ、ヒートマップを作成する	第3章 データを視覚化しよう ・STEP3 データの大小・推移・割合を視覚化する ・STEP4 ヒートマップを使って視覚化する ・練習問題-1
7	ヒストグラムを作成する 移動平均を求める	第3章 データを視覚化しよう ・STEP5 データの分布を視覚化する ・STEP6 時系列データの動きを視覚化する ・練習問題-2
8	仮説検定（F検定、t検定）を理解する	第4章 仮説を立てて検証しよう ・STEP1 仮説を立てる ・STEP2 2店舗の売上個数の平均を比較する
9	パレート図を作成する 検証結果を分かりやすく伝える	第4章 仮説を立てて検証しよう ・STEP3 人気のある商品とない商品を確認する ・STEP4 新商品案を検討する ・練習問題
10	散布図を作成する 相関を理解する	第5章 関係性を分析してビジネスヒントを見つけよう ・STEP1 変数の関係性を視覚化する ・STEP2 変数の関係性を客観的な数値で表す
11	相関分析の落とし穴を理解する 単回帰分析を行う	第5章 関係性を分析してビジネスヒントを見つけよう ・STEP3 相関分析の注意点を確認する ・STEP4 原因と結果の関係に注目して売上個数を分析する ・練習問題-1
12	重回帰分析を行う 分析結果を分かりやすく伝える	第5章 関係性を分析してビジネスヒントを見つけよう ・STEP5 アンケート結果を分析する ・練習問題-2
13	ゴールシーク、ソルバーを使って最適解を求める Copilotを活用する	第6章 シミュレーションして最適な解を探ろう ・STEP1 最適な解を探る ・STEP2 最適な価格をシミュレーションする ・STEP3 最適な広告プランをシミュレーションする ・練習問題 第7章 生成AIを使用したデータ分析 ・STEP1 Copilotを活用する ・STEP2 関数や分析に関する疑問点を聞く ・STEP3 分析結果を見せてビジネスへの活かし方を聞く
14	前期末試験	前期末試験
15	追試	追試

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	よくわかる Excelではじめるデータ分析入門 関数・グラフ・ピボットテーブルから分析ツールまで
参考文献・資料等	パワーポイント等のオリジナル資料
備考	教科書がExcel操作重視の内容となっているため、統計学の説明を補完するためオリジナル資料を使用。 理解度に合わせるため、授業のペースを変更する可能性がある。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	会計・財務論 I (DB)		(TDB221)
講義名 (コード)	会計・財務論 I (DB)		(TDB221)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石坂 尚	時間数	30
成績評価教員	石坂 尚	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	本授業では企業活動における財務活動にて、会計面からアプローチし、企業の資金状況について理解する。
全体の内容と概要	企業財務活動について、財務諸表を理解し企業の安定性、収益性が理解できるようにする。今回は、本授業と後期の授業科目とで、全体がつかめるようにする。
授業時間外の学修	学習した知識をもとに、HPなどに掲載されている企業の財務諸表を見ながら、企業の財務活動と安定性について考えてみる。
履修上の注意事項等	よく復習すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「会計」はなぜ必要なのかを理解する	1章：経営と会計にはどんな関係があるの？①
2	「利益」はなぜ必要なのかを理解する	1章：経営と会計にはどんな関係があるの？②
3		(課題)
4	貸借対照表を理解する	2章：財務諸表についてこれだけは知っておこう①
5	損益計算書を理解する	2章：財務諸表についてこれだけは知っておこう②
6	キャッシュフロー計算書を理解する	2章：財務諸表についてこれだけは知っておこう③
7	安定性を測る指標を理解する	3章：会社の安定性はどのようにチェックするの？
8	収益性を測る指標を理解する	4章：会社の収益性・効率性はどのようにチェックするの？①
9	効率性を測る指標を理解する	4章：会社の収益性・効率性はどのようにチェックするの？②
10	「付加価値」とは何かについて理解する	5章：会社の付加価値と生産性はどのようにチェックするの？①
11	「生産性」とは何かについて理解する	5章：会社の付加価値と生産性はどのようにチェックするの？②
12	「在庫」の評価について理解する	6章：在庫を効率化するにはどうしたらいい？①
13		前期の復習
14		前期試験
15		試験の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	教科書：図解でわかる_小さな会社の経営に活かす会計
参考文献・資料等	
備考	授業のPDFは各時間用で作成

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコミュニケーション I (DB)		(TDB223)
講義名 (コード)	ビジネスコミュニケーション IA (DB)		(TDB223A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	学習の目的を理解する	ガイダンス(年間授業スケジュール、到達目標)
2	学習方法について考える	パワードリル文字語彙N2 N2の攻略について
3		演習問題
4	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 読解 短文
5	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 読解 短文
6	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 読解 短文
7	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 読解 短文
8	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
9	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
10	語彙・図での内容理解	パワードリル文字語彙N2 読解 中文
11	語彙・図での内容理解	パワードリル文字語彙N2 読解 中文
12	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
13	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターン読解N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコミュニケーション I (DB)	(TDB223)
講義名 (コード)	ビジネスコミュニケーション I B (DB)	(TDB223B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	DB2	単位数 2単位
授業担当者	丹治 理恵	時間数 30時間
成績評価教員	丹治 理恵	講義期間 春学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	読解の基礎を身に付ける	ガイダンス(年間授業スケジュール、到達目標) 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level 1 ウォームアップ①②
2	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ③④
3	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ⑤⑥
4		演習問題
5	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Leve 2 練習問題 1 日目
6	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 2 日目
7	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 3 日目
8	語彙・グラフでの内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 4 日目
9	語彙・グラフでの内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 5 日目
10	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
11	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
12	語彙・図での内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 6 日目
13	語彙・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 7 日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	コミュニケーション I		(TDB225)
講義名 (コード)	コミュニケーション IA (DB)		(TDB225A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	この授業の目的・ゴールを確認する。	オリエンテーション 教科書の使い方 自己紹介
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターン N2 基礎編 1～2 TRY!N2文法 課題配布
3		演習問題
4	話のポイントや概要が理解できるようになる。	必修パターンN2聴解 基礎編 3～4 TRY!N2文法 課題提出
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターン N2聴解 基礎編 5～6 TRY!N2文法 課題配布？
6	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 基礎編 7 TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 課題理解 1～3 TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 課題理解 4～6 TRY!N2文法
9	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 課題理解 7～10 TRY!N2文法
10		JLPT模試
11		JLPT模試
12	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 課題理解 11～14 TRY!N2文法
13	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解 ポイント理解 15～18 TRY!N2文法
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターンN2 聴解 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	コミュニケーション I		(TDB225)
講義名 (コード)	コミュニケーション I B (DB)		(TDB225B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	この授業の目的・ゴールを確認する。	オリエンテーション 教科書の使い方 自己紹介
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターン N2 基礎編 1～2 TRY!N2文法 課題配布
3		演習問題
4	話のポイントや概要が理解できるようになる。	必修パターンN2聴解 基礎編 3～4 TRY!N2文法 課題提出
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターン N2聴解 基礎編 5～6 TRY!N2文法 課題配布？
6	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 基礎編 7 TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 課題理解 1～3 TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 課題理解 4～6 TRY!N2文法
9	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 課題理解 7～10 TRY!N2文法
10		JLPT模試
11		JLPT模試
12	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 課題理解 11～14 TRY!N2文法
13	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解 ポイント理解 15～18 TRY!N2文法
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターンN2 聴解 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。